


 巻頭言

現場で使える技術を目指して —ゴールは農家—



福岡県農林業総合試験場 まつ もと さち こ
松 本 幸 子

全世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ですが、いまだ感染経路、治療法等明確に解明されておらず、感染も続いている中、医療関係者をはじめとして対応されている皆様に心から尊敬と敬意を表します。

本来ならオリンピックもあり、人、物の移動がますます激しくなる中、病害虫の侵入警戒を強化する必要がありますと書いていたところでしたが、1年の間にこれほど世界が大きく変化するとは思いませんでした。

福岡県では、新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号）第32条第1項の規定に基づき、4月7日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言7県の対象となりました。いきなりの外出自粛、在宅勤務やリモート会議等急激な社会情勢の変化で先が見えない暗いトンネルに入った感覚でした。しかし、この感覚は、我々植物防疫関係が一度は経験する、新病害虫が点から面に広がっていく状況の世界規模を彷彿させます。一度侵入した病害虫をなかなかゼロにできない焦り、いったん減ってからの再増加、関係機関が一堂に会して課題解決に取り組み、何年もかけての対策を施して沈静化する流れは全く同じです。きっと新型コロナウイルス感染症も解決できると信じています。

今年度は、このような情勢でも容赦なく飛来してくるツマジロクサヨトウ、ミカンコミバエ種群、そしてトビイロウンカ等の海外飛来性害虫の対応に苦慮した年でした。問題になる前に対応することを業務としている植物防疫ですが、いざ発生すればすぐに最前線で対応できる体制の必要性が改めて認識された年でもありました。

ここで自分の経歴を紹介したいと思います。大学で植物病理学を学んだあと、県試験場病害虫部に配属されました。その後、病害虫防除所、農林事務所、普及指導センター、病害虫専門技術員を経て現職（試験場病害虫部長および病害虫防除所長の兼務）にたどり着いた変わり種です。所属した場所で最大限できることをやってきた自負はありますが一方、思い返してみると、若いころはなんのためにやっているのか、明確な目標があったわけではなかったような気がします。転機になったのは、普及指導員になったことです。目の前に課題が転がっており、そのなかでも病害虫は常に問題となっていました。私が野菜の普及指導員になった時代は、防虫ネットはすでに導入されていましたが、紫外線除去フィルムの普及開始およびアザミウマ類やコナジラミ類等に対する天敵

「スワルスキー®」が販売された年でした。この組合せを全国に先駆けていち早くキュウリ産地に導入した結果、栽培期間が2か月も延長可能となり、部会平均単収がわずかに2年間で1.5倍になった経験が今の自分を支えています。もちろん、未熟な自分を大きな懐で引き入れ、技術を取り入れてくれた農家のおかげです。

また、大学の後輩から聞かれた言葉があります。「大学で学んだことは社会人になって役に立っていますか」。基礎的なところは確かに役に立っています。が、大学で研究していたときに一番大きな部分が抜け落ちていたことを今、実感しています。卒業論文や修士論文のためのデータを揃えるというのが大きな目的であり、その背景を感じることができていませんでした。今の大学の研究室でも、自分たちの研究が実社会で普及拡大できるという実感がみえない方も多いと思います。学会に発表したら、論文書いたら終わり、論文データをとるためだけの試験をやっていると思いませんか。病害虫の被害→要因解明→病害虫の同定診断→発生生態解明→防除法の確立→普及・指導と、どこかで関与しているはずですが。我々国や県では決まった期間で成果の実績を問われるため、基礎研究まで時間が割けなくなってきています。現場が一番近く、現場で実証することが多い、病害虫関連の研究でも例外ではありません。関係機関がお互いに補足しあって課題解決を行っていると考えればつながっています。国や県等の研究機関の研究の方向性も、技術を開発するだけではなく、いかに現場に利用していくか、普及方法までを連携させて組み立てていく内容に変わっています。さらに、同定診断の技術も向上しています。ひと昔前は同定が困難だったウイルスや細菌等が簡易に診断できるようになり、対策も早期に可能となって拡大抑制に一役買っています。我々の業務はもっと進化し続ける必要があると思います。

農林水産省にある植物防疫法は、昭和二十五年に制定され、その目的は、「輸出入植物及び国内植物を検疫し、並びに植物に有害な動植物を駆除し、及びそのまん延を防止し、もつて農業生産の安全及び助長を図ることを目的とする。」と70年経った現在でも生きている法律です。農林水産省関連で業務をするからには、ゴールの先には農家がいることを認識するだけで、今自分がなにをすべきかのヒントになると思います。

（九州病害虫研究会 会長）